



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	蘇南地域における農村企業の展開と出稼ぎ労働者：江村の追跡調査(7)
Author(s)	朴, 紅; 坂下, 明彦; 姚, 富坤
Citation	北海道大学農経論叢, 67, 83-95
Issue Date	2012-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/49172
Type	departmental bulletin paper
File Information	67_9.pdf



蘇南地域における農村企業の展開と出稼ぎ労働者

—江村の追跡調査(7)—

朴 紅・坂 下 明 彦・姚 富 坤

Development of rural enterprises and migrant workers in south Jiangsu Province -Jiang village follow-up study (7)-

Hong Park, Akihiko Sakashita, Fukun Yao

Summary

Against the backdrop of rural industrialization, Kaixiangong village, under the small town construction policy advocated by Fei Xiaotong, created many job opportunities through village-level enterprises, and achieved a high employment absorption capacity. However, since the mid-1990s, village enterprises have been gradually replaced by private enterprises due to a business crisis.

In this study, we analyzed the development of private enterprises and employment status based on surveys of several private enterprises. One point of focus is migrant workers. In spinneries, migrant workers are only hired when there is a manpower shortage and the number of workers hired under such circumstances is decreasing. On the other hand, the sweater cottage industry has depended on migrant workers from the very beginning, which means this industry could not maintain its business without a continuous supply of migrant workers. Moreover, being considered not only as a solution to solve problems related to agriculture, the rural area and farming, but also as a way to develop the coastal area, solving the issues faced by migrant workers is critical, and it especially plays an important role in developing rural coastal areas.

はじめに

2000年人口センサスが捉えた中国の人口移動は1億4,439万人であり、出稼ぎ労働の中心である省間移動は4,242万人であった。2010年人口センサスの人口移動の速報値は2億6,139万人であり、省間移動は未公表であるが、1億人に迫ると予想される。この問題は多くの注目を集めており、移動元に関しては三農問題、移動先に関してはその待遇、二極分化などについて統計分析やケーススタディが積み重ねられている。また、出稼ぎ労働力が不足に転じたか否かについても議論が分かれている(註1)。1990年代前半までは、農村過剰労働力問題が焦点であり、小城鎮建設という政策課題との関連で郷鎮企業に関する議論が中心であ

ったが、それ以降は沿海都市部での出稼ぎ労働者問題にシフトしたのである。

本論では、今や忘れられた感がある郷鎮企業が展開した村に着目して、その後の私営企業の展開下にある農村工業の動向とそのもとでの雇用の現状を個別企業の動向に即して明らかにするものである。ここでも、出稼ぎ労働者の流入は顕著であり、農村から農村への移動という特徴をもつ。それを受入側からの視点によって明らかにしていく。対象地は、我々が定点観測を行っている江蘇省開弦弓村である。農村工業を対象に企業調査を実施し、企業の沿革、従業員の構成、特に出稼ぎ労働者の性格に焦点を当てた。期間は2011年9月および翌年1月である。村内に存立する主要な農村工業の類型を主にその成り立ちから整理し、地元雇

表1 開弦弓村における企業の推移

	2010	設立年	組	備	考
織布	栄系達紡績	2002	8	既存	
	江村絲綢	1997	9	既存	
	求是紡績	2002	13	既存	
	振慶紡績	-	14~16	永豊紗廠の跡地を4つの企業に賃貸したうちの1社で地元企業	
	乾昌紡績	2002	24	既存	
	田園紡績	2007	15	2007年設立(金峰, 絹紡績織布工場跡)	
ニット工場	神諾紡績加工	1998	21	既存	
	博名針織	2006	15	田園紡績の別会社でブランド名は静嘉麗縫製	
	欧盛制衣	2007	15	省外者が設立, 縫製工場(金峰製糸工場跡)	
その他	永泰電子	1984	19	既存	
	江村醸造	1997	16	既存	
	江村鍛造工場	2003	6	既存	
	江村金属物資	2000	8	既存	
	蘭記食品	-	8	既存	
	漢慶金属	1998	8	既存	
開発区への移転・新設企業	煉瓦工場	2006	9	村外者が設立(9組)	
	月亮家庭紡績	2004		江村絲綢の社長が当初共同出資で設立, 2008年から単独化	
	利偉噴織	2003		跡地は周永林が買収した	
	立錦紡績公司	2008		2004年に横扇鎮に移転したが, 有声有色(村外企業)の後の林茂紡績が開発区に移転して, 立錦紡績がそれを買収した	
	華豊紡績	-		村民が光栄村で設立した企業で, 開発区に移転	
	緑茵紡績	-		村民が連強村で設立した地元合併企業で, 独立して開発区に移転	
	世康紡績	2010		村民と村外者により設立	
	呉江新力制冷	2008		冷蔵庫の部品生産, 04年に横扇鎮に移転後倒産したが, 08年に開発区で新会社を設立	

資料) 村民委員会資料および聞き取りにより作成。

注1) 既存は, 朴ほか[2012a]の表5を参照。

注2) 開発区は鎮政府が2002~03年にかけ, 100ムーを接収して工業団地として造成。現在100社が立地。

用を優先していた村営企業の影響, 業種による就業形態の特徴などを配慮して, 出稼ぎ労働者の分布とその性格を明らかにする。

1. 企業の類型と雇用形態

以下では, 実態調査を実施した企業を類型化し, 雇用の特徴と出稼ぎ労働者の位置づけを予め明らかにしておく。

現在, 村の私営企業は表1に示すように16企業あり, このほかに鎮政府によって設置された近隣の工業団地(開発区)に7企業が移転, 新設されている。村内の企業は, 朴ほか[2012a]の表5に示した2004年時点の工場から大きな変化はなく, 倒産した金峰工場の跡地に田園紡績と博名針織工場という同一資本による進出, 省外者による欧盛制衣(縫製工場, 内容は不明)の進出が主なものである。開発区に立地するものを含めると, 化繊織布工場(以下, 紡績工場と称する)は12企業にまで拡大し, セーター工場が3工場, その他が8工場の構成となっている。

これら工場群から, 代表的な紡績工場のうち村

営企業を継承した2企業, 新設企業を2企業, 1980年代当初から私営であった1企業, ニットセーター企業のうち工場制の企業を2企業, 表出していない家内制の1企業を選定して面積調査を行った。

予め, 調査企業の概要と今回の調査の重点に据えた出稼ぎ労働者の性格についてまとめた総括表が表2, 表3である。調査対象の中には, 朴ほか(2012a)において統計分析を行った栄系達紡績, 江村絲綢, 求是紡績, 永泰電子が含まれている。以下では, 工場の沿革, 生産の概要と雇用, 特に出稼ぎ労働者の実態を類型別に整理していくことにする。

2. 村営継承企業のケース

1) 村営企業からの独立

ここで取り上げる2002年設立の栄系達紡績(註2)と2003年設立の江村絲綢(註3)の社長は, ともに村

営の開弦弓紡績の管理者, 党書記を歴任しており, 村の行政機関において活躍した人物である。したがって, 両者は村営企業の継承企業と位置づけることができる。

この2人, すなわち潘志栄は1957年生まれの55歳, 周永林は1962年生まれの50歳である。周永林は高校中退後, 1997年に開弦弓紡績の前身である紅衛紡績工場に整備工として就職し, 1981年には副工場長に抜擢され, 1984年から91年まで工場長を務める。しかし, 1991年に当時の「連合経営」政策により工場が盛沢工藝製造場に統合され, 新しい工場長が派遣されたことから村の経済合作社に移動し, その倒産後, ナイロン衣類の集積地である盛沢鎮の卸売市場で卸商を始めることになる。他方, 潘志栄は小学校中退後, 就農, 軍隊生活を経て, 周永林と同じ紅衛紡績工場に整備工として1981年に就職し, 周の工場長時代に主任, 副工場長を務めるが, 1年間は工場製品の委託販売に従事する。紡績工場の運営化後は, 二代目の工場長を1991年から1995年まで務める。1996年には折からの民営化政策を受けて個人で工場を請け負うが,

蘇南地域における農村企業の展開と出稼ぎ労働者

表2 調査企業の概要（2011年）

工場形態	出身組	工場名	設立年	製品	機械	業績	雇用者数	雇用先	賃金
村営継承織布企業	11組	栄絲達紡績* 潘志栄 55歳	2002	化織織布 648万m	噴水式織機 90台	販売額 2,200万円 利益300万円	男15名 女35名 計50名	村民25名 周辺村25名	男5,800元 女4,200元
	10組	江村絲綢* 周永林 50歳	2003	化織織布 432万m	噴水式織機 63台	販売額 1,900万円 利益200万円	男19名 女39名 計58名	村民30名 周辺村26名 出稼ぎ2名	男4,200元 女3,500元
新設織布企業	西草田村	田園紡績 徐柏明 59歳	2007	化織織布 1,200万m	噴水式織機 158台	販売額 5,000万円 利益1,000万円	男37名 女73名 計110名	村民53名 周辺村53名 出稼ぎ4名	男5,500元 女5,200元
	7組	求是紡績 饒貴龍 48歳	2002	化織織布 (カーテン・ソファ・カーパー生地) 年間400万m	噴水式織機 76台	販売額 1,800万円 税金65万円 利益300万円	男10名 女50名 計60名	村民18名 周辺村37名 出稼ぎ5名	男5,000元 女4,500元
旧型私営企業	19組	永泰電子 周玉官 50歳	1990 (1983)	大型バスのライト、小型ポートの部品	2ライン溶接組立	販売額400万円	男6名 女9名 計15名	親戚と出稼ぎ労働者	管理職(3名): 3,000元 一般職: 2,000元 (8時間勤務)
ニット織物企業	西草田村	博名針織 徐柏明 39歳	2008	ニットセーター製品 30万枚 他に委託70万枚	全自動織機 30台	利益750万円	男20名 女23名 計43名	村民12名 周辺村5名 出稼ぎ26名	3,200元
	15組	徐明電腦編織 徐明 34歳	2010 (2002)	ニットセーターのパーツ (注文生産)	全自動織機 13台	販売額38万円 利益23万円	男3名 女4名 計7名	地元は2名(光栄村・連強村), 5名は出稼ぎ者	織機1台担当 (12時間)400元を配分 (2,000元)
	9組	個人姚学侯 35歳	2011 (2001)	ニットセーターのパーツ (注文生産)	全自動織機 9台	販売額40万円 税金5,000元 利益20万円	男4名 女1名 計5名	全員が出稼ぎ者	男工(12時間): 2,500元 夫婦(12時間)5,500元

資料) 2011年9月および2012年1月調査による。

表3 調査企業における出稼ぎ労働者の性格

職種	工場名	出稼ぎ労働者	割合	変化	業務内容	居住など条件	募集
村営継承織布企業	栄絲達紡績	なし	-	0%	-	-	-
	江村絲綢	女2名	-	3%	2010年から雇用	-	-
新設織布企業	田園紡績	計4名		5%	【設立間もない】	地元労働者と同	未了
	求是紡績	夫婦1組 女3名 計5名	全て安徽省出身 の40歳代	8%	2004～06年には安徽・河南省から15～16名来ていたが、嫁出、所得向上、地元での雇用により減少	女工並びに修理工	夫婦は住宅を提供、他の3名は夫との出稼ぎ
旧型私営企業	永泰電子	男1名 女3名 計4名	男(30) 蘇北 女(35) 貴州省 女(28) 蘇北 女(30) 四川省	27%	2004年時点では、労働者60名のうち50名が臨時雇で、後者は出稼ぎ労働者	男が管理職の他は一般職(部品製造)	男は地元婿入り は嫁入り は13組で借間(夫婦・子供2人)
ニット織物企業	博名針織	計26名	安徽省>四川省>貴州省	60%	【設立間もない】	地元労働者と同	未了
	徐明電腦編織	男3名 女2名 計5名	全て安徽省 男(46) 男(26) 男(23) 女(19) 見習い 女(17) 見習い	71%	【設立間もない】	5名(うち2名は見習い)が織機の管理、1名は食事(1,800元)、1名は品質管理(2,400元)	全員無料で、間借り(自宅)と食事 知人からの紹介が主 下段のバスターミナルの利用もあり
	姚学侯	夫婦1組 男3名 計5名	夫婦(27・27)湖南省 男(23)湖南省の親戚 男(23)四川省 男(23)四川省	100%	【設立間もない】	男4人が織機管理、女1人がパーツの切断と品質チェック	全員無料で、間借り(自宅)と食事 横扇鎮(セーター生産の集積地)のバスターミナルに募集の張り紙をし交渉(正月明け)

資料) 表2に同じ。

失敗に終わり、1999年からはエビの養殖業に転換する。この工場の経営破たんを受けて、今度は周営林が1997年から工場を請け負うことになり、2003年には工場を買い取って江村絲綢を設立することになる。瀋志栄もその1年前の2002年に同じ村の工業団地内の村営企業の敷地・建物を買取り、栄絲達紡績を立ち上げるのである。

2) 工場の拡充と地元雇用の堅持

(1) 周永林は、1997年に開弦弓紡績の請負を開始するが、織機は売却されて存在せず、およそ100戸の農家に原料供給し、手動織機で生産された織布を販売する形態であった。2001年に噴水織機30台を導入し(1台10万元)、その後6台を追加して2004年には36台の操業となっている。女工は1人につき10台を管理し、12時間2交代制であり、修理工を含めた従業員数は18人であった。賃金は月給1,800元であった。機械導入期の販売単価はメートル当たり2元であり、日産量は2,000m、900万元の売り上げで、コストは低かったため15%程度の利益率であった。

2003年には工場を買取り、江村絲綢を設立している。2005年に織機(1.9m幅)を更新し、70台、日産2,100mの生産体制となっている。販売価格はメートル当たり2元であった。2009年には、3.4m幅の織機63台の操業となっているが、織幅が大きくなったため、台数を減らし、日産1,200mとなった。2010年の雇用は60名であり、1人が9台を操作している。勤務時間は12時間ないし8時間の選択制であり、月給は女工が3,500元、男子技術工は習熟度によって3,500~5,000元である。80%が村民であり、20%は廟港市街からの勤務である。出稼ぎ労働者を雇用することは基本的には利益を大きくするかどうかの選択であり、宿舍の確保や知人でないことから生ずる管理問題が発生するという(註4)。

(2) 一方、瀋志栄は2002年に栄絲達紡績を設立する。旧式織機40台余(1台10万元)を盛沢鎮から購入して操業を開始した。雇用は当初150人であり、そのうち女工が140人、男は10人で機械整備を担当した。12時間2交代制であり、一人が2台の操作を行った。40%が村内で、40%が廟港鎮内、残り20%が八都鎮であり毎日送迎していた。可能ならばすべて村内から雇用したかったが、確

保できなかったという。日産5,500mであり、労賃はメートル当たり1.1元の計算となる。売り上げは800万元であり、うち利益が80万元(利益率は約10%)であった。

2004年には織機は旧式84台となっていたが、雇用は60~70人ですべてが村民であり、月給は800元であった。2005年には旧式96台の他に20台の新しい噴水織機を導入し、06年にはすべて新式48台となっている。2006年は売上が1,440万元、利益が114万元(8%)であった。

2009年の雇用は50人であるが、うち女性が43人、男性が7人ですべて整備工であり、ほとんどが村民の雇用となっている。賃金は、女工が月給3,300元、整備工が同3,800元である。日産18,000mで、メートル当たり労賃は保険込みで0.27元となっており、労働生産性は大きく高まった。売り上げは2,000万元、利益が200万元(10%)となっている。

(3) 両者は織布工場の先発組であり、企業成立から10年を経過し、中堅企業に成長している。雇用はともに村民主体の姿勢をとっており、この面では村営企業を継承している。周永林は開発区に別の紡績工場を設立しているが(註4参照)、ここでは出稼ぎ労働者主体の雇用を行っており、村内とは別の顔を持っていて、興味深い。

3. 新設私営企業のケース

1) 企業設立の経緯

ここで取り上げるのは、求是紡績(2002年設立)(註5)と田園紡績(註6)である。

前者の社長饒貴龍は1964年生まれで48歳、後者の社長徐柏明は1973年生まれで39歳、前項で取り上げた農村幹部出身の企業家と比べると1回り若い世代である。

(1) 饒貴龍は、1964年に開弦弓村7組で生まれる。1983年に盛沢中学校卒業後、蘇州絲綢工学院紡績工程科に入学、村の奨学生となる。1986年にこの専門大学卒業後、都市戸籍を取得し、開弦弓紡績に配属になる。就職当時の職務は形式的には新製品開発であったが、通常業務は一般の修理工であり、不遇であった。そのため、1992年に盛沢工芸製造工場に転職する。ここでは、商品開発部の新商品の研究開発の責任者となり、1995年か

ら97年の3年間で織布の新デザインを次々と考案し、会社の信頼を得る。工場は有梭の織機（K611）が400台余りで職工は合計1,700人、そのうち女工が1,000人という規模であった。1999年に鎮営から請負制への転換があり、工場長ほか3名と3ヵ年契約で工場を請け負うことになった。この時は、織機は無梭の噴水式となっていた。契約終了後の2002年に村に戻り、噴水織機24台で求是紡績を立ち上げることになる。高学歴のエリートであるにもかかわらず、村営工場では阻害され、より大きな工場で私営化を経験し、私営企業を設立したということになる。

(2) 一方、徐柏明は1973年生まれで、出身は西草田村であるが、6組で婿入りする。小卒であり、2年ほど理髪師、さらに水運業（上海と湖州の間）を経験した後、1992年には横扇鎮から織機13台を購入し、蘇北の南通市から出稼ぎ労働者を受け入れて家庭内工業を始めるが、2年で廃業する。1995年からは、セーターのパーツの運送業を行い、1996年からは同時に織機の部品販売店を開店した。同年に、連強村においてそこに居住する姉の夫とともに織機18台を導入し、「誠信針織製衣廠」（後に博名針織に改称）を開業する。1998年までは工場経営と部品販売を同時に行っていた。2003年6月からは浙江省濮院の卸売市場でセーターの卸売業を開始する。店舗と倉庫を持ち、妻の伯父の娘、臨時工を入れて計9人で広域的にセーターを集荷し販売した。この卸売業を継続しながら（主に妻が担当）、2006年に金蜂工場跡地を購入し、博名針織を移転させるとともに（主に長兄と長姉が担当）、2007年からは田園紡績工場を新たに設立するのである。徐柏明は饒貴龍と異なり学歴もないが、まさに叩き上げで34歳にして近代的工場主の地位にまでのし上がるのである。

2) 工場経営と雇用

つぎに工場における投資と経営内容、雇用状況について見ていこう。

(1) 求是紡績は表4に示すように、初期に日本製（豊田織機）の双噴織機を導入し、その後4回の投資によって、現在76台にまで生産拡大を行っている。追加投資において、民間貸借（註7）を行っていることが注目される。織布の織幅は次第に幅広になっており、3mが主流になっている。

生産量は2006年で1,000万m、販売額は2,700万元であったが、2011年は400万m、1,800万元に低下している。しかし、単価は3.9元から5元に上昇しており、利益も114万元から300万元に上昇している。11の会社からのカーテン、ソファカバーなどの生地、契約生産をしており、高級品を戦略としている。

表4 求是紡績の機械投資

年次	労働力(人)			台数	織幅 (m)	単価 (元)	投資額 (万元)	民間貸借 (万元)	備 考
	計	村内	出稼ぎ						
2002				24	2.1	24.0	576	注2)	日本製
2004	80	40	15	28	1.9	8.2	230		国産
2009				20	3.0	5.4	108	60	国産(更新)
2010				12	2.6	11.7	140	10	国産
2011	60		5	20	3.0	5.5	110		国産

資料) 聞き取りにより作成。

注) 総投資額は1,000万元であり、自己資金280万元、農地担保の農村信用銀行融資300万元、取引先業者からの融資420万元（現物支払）である。

雇用については、2004年段階で80人、うち40人が村民であり、村外者のうち15人が河南・安徽省からの出稼ぎであった（帰省の際の送迎あり）。しかし、嫁入りや地元での就業機会の増加や所得の上昇などにより、2007年からは減少した。2011年では、女工が50人、男子修理工が10人であり、月給は女工の場合、8時間が2,300元、12時間が4,800元、修理工は12時間勤務で5,500元である。出稼ぎ労働者は、現在は5名、全て安徽省出身の40歳代であり、夫婦の雇用が1組（工場で住宅を提供）、他は女性で他の工場に勤務する夫との夫婦出稼ぎである。この中には、子供連れが1組いる（註8）。

(2) 田園紡績は、2006年10月に金蜂工場の南側跡地を19ム一購入して、新設された。操業は2007年であり、表5に示すように織機を矢継ぎ早に導入し、現在の織機数は188台である。

表5 田園紡績の機械投資

年次	台数	織幅 (m)	単価 (元)	投資額 (万元)	備 考
2007	35	3.4	10.9	380	
2009	42	2.1	3.3	140	中古が50%
2010	14	2.1	5.0	70	
2010	37	3.4	10.8	400	
2011	30	3.4	6.7	200	
合計	158			1,190	

資料) 聞き取りにより作成。

2011年の生産量は、織幅2.1mの織機（56台）が日量270mで年間92万m、織幅3.4mの織機（102台）が日量200mで年間68万m、合計160万mである。販売額は、前者の単価が2.9元で総額はおよ

そ1,500万元, 後者の単価が4.0円で総額はおよそ2,800万元, 20%の外注を合わせて5,000万元となる。利益率は20%と高く, 利益は1,000万元となる。

雇用は110名で, 2.1mの狭幅織機の操作には5人(1人10台), 3.4mの広幅織機の操作には23人(1人5台)が必要であり, 前処理(錘へのまき直しと燃系, 専用機械43台)の10人をあわせ2交替で60人となる。その他は製品の整理や清掃員などである。管理職は社長, 工場長, 生産ライン主任, 会計の4名である。性別では女性73人, 男性37人であり, 賃金の男女格差はない。月給は管理台数で異なるが, 平均で5,200円である。給源は, 村内が53人, 周辺農村が53人, 省外からの出稼ぎ者が4人であり, 隣接するセーター工場に比較して出稼ぎ労働者は少ない。

(3) 両者の特徴は, 村営継承企業と比較して事業経営主が若く, 投資も高度な織機の導入や意欲的で短期的な織機導入を行っている点である。ともに, 村出身の村民企業であるが, 村と周辺農村との雇用に関する区別はない。出稼ぎ労働者に関しては, 前者では帰省に際して送迎を行うなど意識的な確保を行っていたが, 出稼ぎ者の雇用は困難になりつつある。後者での割合は少ない。

4. 旧型私営企業のケース

1) 企業の沿革

ここでは, 村で唯一1980年代から「私営企業」を設立した永泰電子を取り上げ, 雇用の特徴を明らかにする。

洲泰電子社長の周玉官は1962年生まれ(50歳)である(註9)。19組出身であり, 工場もそこに立地する。1978年に廟港高校を卒業後, 大学受験に失敗し, 太平橋村の鎮営化学肥料工場に就職する。1982年に開弦弓紡績が設立された際に招聘されて販売を担当する。しかし, 教員不足のため開弦弓中学校の物理・数学の教師として転出する。この時に扇風機の試作・販売が成功したため, 1983年に廟港電子機材工場を自宅で設立した。当時は, 私営企業は全国的にもほとんどみられず, 税制や融資面で冷遇されることになる。1989年には工場を閉鎖し, 河南省開封市で衣類販売を行うが失敗し, 1990年に工場名を永泰電子として再出発する。製品はクリスマスツリーのランプに用い

るスイッチであり, 顧客はすべて上海のヨーロッパ向けの輸出企業であった。回路の部品は無錫, 深汕などから購入していた。工場施設は, 「個体戸」であったために土地の購入の許可が下りず, 19組の自宅で生産を行っていた。1992年に鎮政府からの建設許可が下り, 小さな工場を建設し, その後2回の拡大工事を行い, 機械設備(国産)も徐々に揃えている。しかし, 2008年の金融危機以降はこの受注がなくなったため, 大型バスのライト全般と小型ボートの部品生産に転換している。2010年の売り上げは400万元であり, 収益は80万元(収益率20%)である。

2) 職員構成の特徴と出稼ぎ労働者

私営企業が一般化する1980年代末から90年代初頭以前はこの言葉は禁句であり, 「個体戸」と呼ばれ, 雇用は8人以下に制限されており, 村民を5~6人雇用する程度であった。営業が軌道に乗った2004年には, 労働者数は60人となるが, 管理職4人と修理工数人以外は, 臨時職員であり, 女性が50人を占めていた。生産の季節性が強く, 臨時職員を多用すること, 8時間勤務で労働環境も良好であるが, 出来高払い制であり, 月給は平均して800円程度であったために, 村民の雇用を全く確保できなかった。そのため, 管理職を含め95%が出稼ぎ労働者であった(註10)。

2010年時点での雇用形態は, 表6に示すように大きく変化しており, 親族が14人のうち8人を占め, 地元雇用が3人, 出稼ぎ労働者が3人となっている。管理職は, 3名のうち, 2名が親族であり, もう一人は蘇北からの出稼ぎ者であったが, 地元で婿入りしたものである。月給は3,000円である。一般職は, 親族が6人, 地元雇用が3人,

表6 永泰電子の従業員の性格

							単位: 元
雇用関係	性別	年齢	出身地	親 族	入社年	就業内容	月給
親族	1	女	48	豊明村 妻	-	共同経営者	
	2	男	43	豊明村 妻の弟	2004	資材購入の管理者	3,000
	3	女	34	19組 長姉の娘	1991	ポート部門の管理者	2,800
	4	男	68	豊明村 妻の父	1997	一般職	2,000
	5	男	59	19組 長姉の夫	1997	一般職	2,000
	6	男	56	19組 次姉の夫	1997	一般職	2,000
	7	女	32	19組 次姉の娘	1991	一般職	2,000
	8	女	37	豊明村 妻の弟の嫁	2004	一般職	2,000
	9	女	58	19組 長姉	-	工場の食堂で調理	-
地元雇用	10	女	50	豊明村	2006	一般職	2,000
	11	女	46	豊明村	2008	一般職	2,000
	12	男	60	19組	-	一般職	2,000
出稼ぎ雇用	13	男	30	江蘇省北部	-	ライト部門の管理者	3,000
	14	女	35	貴州省	2009	一般職	2,000
	15	女	28	江蘇省北部	2009	一般職	2,000
	16	女	33	四川省	1999	(2010年から産休)	

資料) 永泰電子での聞き取りによる(2011年10月)。
注) 月給はボーナス, 手当込みの概数。

出稼ぎが2人である。親戚の年齢はまちまちであるが、地元雇用者は中高年者である。一般職の給与は2,000元の固定給となっており、男女差はない。

出稼ぎ者についてやや詳しく見ると、№14は貴州から出稼ぎ（製氷庫の製造工場）に来て、2001年（25歳時）に5組の男性と結婚、2009年に入社したものである。№15については、現在28歳であり、2009年に自分で工場に応募してきて入社したものである。№16については、後ほど取り上げる（ケース2）。

このように、当初は「個体戸」としての差別のため、後には生産の季節性と労働期間の短期性による月給水準の低さから村民雇用は確保できなかった。営業が上向きの時期には臨時雇として大量の出稼ぎ労働者を受け入れたが、現在では雇用は身内で固め、出稼ぎ労働者は補完的である。ただし、産休を2ヵ年認めるなど、その確保への努力は見られる。

5. ニットセーター編業企業のケース

- 工場制と家内制工場 -

1) ニットセーター編業の動向と事例企業

ここで取り上げるのは、近年転換が進みつつある工場制のニットセーター編業企業である博名針織と全自動編機を導入した2つの家内制企業である。

(1) 博名針織については、田園紡績と同一企業であり、その経過についてはすでに述べた。1992年に一度は家内工業を立ち上げるが、不況のために2年で廃業する。業況の回復を待って1996年に前身となった誠信針織製衣廠を、連強村においてそこに居住する姉の夫とともに開業する。織機18台の規模であった。2000年からはセーターパーツ生産は外注するようになり、縫製のみ行っていた。2006年10月に金蜂工場の南側跡地を購入し、前工場の建物6,000㎡の一部を使用して継続される。2008年にはコンピュータ制御の新式織機を30台（450万円）導入して設備を一新し一貫生産を行うようになる。この時に、静嘉麗縫製のブランドで出荷している。

(2) 徐明電腦編織を経営する徐明は、1978年生まれで、34歳である（註11）。2002年に15組の自宅で旧式織機を3台導入し、ニットセーターの

パーツ生産を開始するが、その後の2回の拡大によって2005年には織機9台となっている。2008年には横扇鎮に移転して自動編機6台を購入して技術革新に対応した。しかし、妻が出産することになり、2010年に村に再移転し、同年に2台、2011年に5台織機を増加させ、現在13台で操業している。うち4台が編幅56インチ（12針）、9台が編幅52インチ（7針）である。自動編機は本体で8.8万円、部品込みで10万円であり、130万円の投資となっている。

(3) もうひとつのニット家内工場の経営主は姚学侯であり、1977年生まれ、35歳である（註12）。会社名はない。2001年に結婚し、9組の自宅で半自動の編機を4台購入してニットのパーツ生産を開始し、10台まで増やす。2005年には妻の実家のある連強村において5戸で全自動編機16台による生産を開始する。参加の経緯は、姚学侯が4戸で始めた共同経営の機械修理工の募集に応じて就職し、その後1台を購入、出資して構成員になったものである。共同経営の4戸は妻の出身地の友人であり、この中には親戚関係を含んでいる。姚は機械修理工として賃金を得ており、妻も自分の編機を見ながら他の編機の管理も行い、賃金を得ていた。収益はプールされ、編機の持ち分で配分された。16台のうち、他の4戸はそれぞれ5台、2台、4台、4台の所有である。この他、1台について運転資金3,000元を負担している。編機の増加を考えたが、スペース上不可能であった。そこで新たな工場を設立するために出資者を探し、2010年に富連村へと移転し、3戸での共同経営を開始した。姚は6台、他の2戸は3台と2台であり、姚の妻が経営管理を行った。姚は整備工として、妻も女工として賃金を得ており、台数に応じた利益配分を受けていた。2011年には自宅に戻り、編機も3台増やして9台の個別経営にもどった。3台の編機は27万円、全て個人借入であり、利率は10%である。

2) 工場の現況と雇用

(1) 博名針織はセーターの一貫生産であり、染色は委託するが、製品は2003年から営業を開始した濮院の卸売市場の自営店舗に納入している。2010年のセーター生産は30万枚であり（1日1,500枚）、70万枚は30の家内工場に委託し、店舗販売

量は100万枚であった。出荷価格は卸売価格の単価30元と5～10元の差があり、それが売り上げとなる。総額で200万元程度の売り上げである。利益率は最終製品まで仕上げるために低いが、卸販売までの一貫経営であるため、卸部門で利益を上げることができる。利益額は不明である。セーター生産は季節性が強く、2010年は200日の稼働であった。秋冬シーズン以外の残り165日は30台のコンピュータを使って細かい作業を行なっている。

雇用は全体で43人であるが、村・周辺村が17人、省外の出稼ぎ者が26人である。省外の出身地は安徽省が最も多く、次いで四川省、貴州省となる。女性が23人、男性が20人であり、男女差は少なく、賃金の男女格差もない。平均して月給3,200元の水準である。出稼ぎのルートについては、斡旋によらず、就労者による同郷人の紹介によるパターンが多い。履歴書は提出してもらわないが、公安局からの要請で犯罪防止のため身分証明書のコピーを警察に提出している。

(2) 徐明電腦編織の生産するセーターパーツは、委託生産である。旧来からのニット製品の集積地である濮院卸売市場の近隣に洪河鎮市場が形成されており、自らも工場経営を行いながら製品までの工程を分業化する機能をもっている。この問屋からオーダーを受けてコンピュータ内でデザインし、見本をつくり、契約によりパーツ生産を行う。加工料は稼働時間制であり、分単位で契約する。9～10月は最も高く分当たり0.25元、オフシーズンは分当たり0.1元である。2011年は編機1台で28,000元、総額で38万元の売り上げを出している。利益率は60%ほどであり、23万元となる。費用15万元の内訳は、労賃4.5万元（30%）、電気代2.3万元（16%）、運送費2.5万元（17%）、労働者の宿泊費・食費2万元（14%）などとなっている。

雇用は7人であり、うち男が3名、女が4名である（表7）。このうち、5人が安徽省出身の出稼ぎ者であり、2人が周辺農村である。2010年に工場移転した要因もあるが、出稼ぎ者は流動的であり、若年層が多い傾向がみられる。安徽省からの募集は「友人」からの紹介であるというが、単なる紹介者ではなく斡旋人である可能性が高い。出稼ぎ者間の故郷での繋がりはない。機械管理労働は請負制となっており、2010年は1台1日の管

理が300元、2011年には400元と上昇傾向にあるが、平均月給の計算では1,800元と2,400元であり、紡績女工と比較して低賃金である。ただし、雇用者から見ると宿泊費と食費が上乘せされている。10歳代の見習い女工がいるが、請負は5人で配分するルールになっており、技術習得も任されている。

表7 徐明電腦編織の雇用者

	年齢	性別	出身	業務内容	月給	就職年	経歴
1	46	男	安徽省	製品仕上、調理	1,800	2011	建築業、軽作業を求めて就職
2	26	男	安徽省	機械管理	*2,800	2008	2004年から横扇鎮で同一業種
3	23	男	安徽省	機械管理	*	2011	チャックの加工業
4	19	女	安徽省	機械管理の見習い	*	2011	
5	17	女	安徽省	機械管理の見習い	*	2011	
6	41	女	連強村	品質検査	2,400	2011	旧式編機の女工
7	40	女	光榮村	機械管理	*	2011	旧式編機の女工

資料）聞き取り調査（2011年10月）により作成。

注）賃金は出来高制で2010年は1台300元、2012年は同400元であり、単純平均で1,800元、2,400元である。

(3) 姚学侯の工場も、原料を委託先が供給する注文制の生産である。委託先は徐明電腦編織と同様に、洪河鎮の新しい卸売市場であり、20の間屋（店舗）から注文がある。注文に応じて糸巻きの原料が供給され、それを錘に巻き直して自動編機に掛ける。生産されたニットをパーツに切断して、束ねて出荷する。この運搬は、20社とも同じ運搬会社が担当している。以降は問屋の指示に基づき、縫い合わせ、染色、アイロン掛け、包装の工程が分業されている。徐明電腦網織が織機の稼働時間による委託料であるのに対し、ここでは1着のパーツ価格での支払であり、1月は1.5元であるが、6月が最低で0.5元、9月が3～5元で最高という季節変動があり、また急ぎの場合は高い。編機1台の利益は2万元である。

雇用については、2011年が移転1年目であるが、人数は5名で全て出稼ぎ労働者である。セーター生産の集積地である横扇鎮のバスターミナルが自然に人材雇用センターの機能を果たしており、そこに募集の張り紙をして、交渉を行っている。27歳の湖南省出身の夫婦（2人で月給5,500元）、その親戚の23歳男性（月給2,500元）、四川省のともに23歳の男性2人（同）である。5人とも、事業主宅に無料で間借りしており、食事も無料で提供を受けている。12時間勤務であり、男4人が編機管理、女1人がパーツの切断と品質チェックを担当している。

夫は機械修理を担当しており、母も補助的な労働を行い、妻は管理を行っており、給与はない。2011年度は、売り上げが40万元、利益は20万元で、

税金支払い額は5,000元である。

(4) ニット生産の家内工業の展開史をみると、時期的には博名針織が1996年、姚学侯が2001年、徐明が2002年と開業時期に差があるが、村外での小工場の設立、共同経営形態による操業など、共通する点も多い。博名針織の全自動化時期は2007年であり、後2者は2005年と2008年に全自動化と村外設置を行い、その後帰村するという行動をとっている。工場制での雇用は雇用規模自体が50人と大きい、機械が全自動化すると労働における男女間分業が失われ、賃金格差もない。その給源は出稼ぎ労働者が主体であり、安徽省、四川省、貴州省となっている。月給の水準は2,000～3,000元であり、紡績工場の女工賃金と比較して明らかに安い。家内工業については、雇用規模は徐明が7人、姚学侯が5人と少ないが、ここでも出稼ぎ労働に依存し、賃金についても請負制であるが、工場制と同様の水準である。このように、セーター（パーツ）工場では、これまでみてきた中で最も出稼ぎ労働者に依存した経営を行っており、労働時間も12時間制、住み込み、請負賃金など労働条件は最も低い水準にある。

6. 出稼ぎ労働者の性格

1) アンケートによる特徴

出稼ぎ労働者に関する面接調査は困難が予想さ

表8・1 出稼ぎ労働者の職種

No.	性別	年齢	居住地	学歴	出稼ぎ開始年		職 種	労働時間	労働日数	月 収
					年次	年数				
1	男	45	9組	小卒	1997	14	鍛冶,日用品の販売	6~8	25	5,000
2	男	40	15組	中卒	1997	14	車の運転	8	26	5,000
3	女	37	15組	中卒	1998	13	店の営業	14	30	2,000
4	女	34	15組	小卒	1997	14	果物の販売(店舗)	15	30	5,000
5	女	23	13組	中卒	2008	3	紡績工(振慶紡績工場)	12	30	2,500

資料) 2011年9月の配表調査により作成。

表8・2 出稼ぎ元の家族と農業

No.	性別	年齢	出身地	家族										農地面積(ム)	賃貸	作物
				人数	祖父	祖母	父	母	兄弟	姉妹	配偶	子	その他			
1	男	45	安徽省当塗県	5			1	1	1	2				4		-
2	男	40	安徽省霍邱県	6			1	1	3			1		4	一部	水稻・小麦・油菜
3	女	37	四川省仁寿县	5			1	1	2				1	-		水稻・大豆・小麦
4	女	34	安徽省利辛県	7			1	1	1	1	1	1		5		水稻・大豆・小麦・玉米
5	女	23	安徽省阜南県	2	1	1								6		

資料) 表8・1に同じ。
注) - は未回答を示す。

表8・3 出稼ぎの経緯と故郷との関係

No.	性別	年齢	出稼ぎ前職	出稼ぎの理由	開弦弓村選択の理由	仲介人	年間の送金	年間帰省回数	年間帰省日数	将来の居住	将来の職業・夢
1	男	45	農業	収入条件	条件よく家購入	×	5,000	2~3	20	開弦弓村	商売
2	男	40	農業	生活向上	ひとの紹介	○	10,000	2	10	実家	商売
3	女	37	学生	貧困	偶然	×	1,000	1	-	実家	不動産業
4	女	34	学生	生活向上	環境・収入条件	×	6,000	1	4~5	開弦弓村	永住
5	女	23	学生	貧困	同郷人の紹介	○	1,000	1	不確定	実家	養鶏業

資料) 表8・2に同じ。

れたため、簡単なアンケート用紙を事前に準備し、試行的に実施した。配布先は博名針織の労働者5名であるが、比較のため村内に出稼ぎ労働者5名を無作為に選択し、回答を得た。後者は雑業層の労働者を多く含んでいる。

(1) 雑業層

表8は、後者のアンケートの内容である。村内の紡績工場の女工である№5を除くと、男女ともに30～40歳代であり、村での居住も10数年と長期にわたっている。職種は店舗での小売が多く、車の運転手などもある。1日の労働時間は店舗販売で長く、ほとんど休日のない生活であるが、月収は5,000元程度であり、工場労働者より高い。成功者が残っていると考えられる。

出身地は、比較的近い安徽省、内陸深い四川省となっているが、これに貴州省や湖南省を加えると出稼ぎ元の範囲となる。家族は5～7人と比較的多く、配偶者と子供を残しているもの(女34歳)と子供を残しているもの(男40歳、妻は同居)がいる。農地面積は4～6ムと零細であり、しかも賃貸に出している割合が高い。

出稼ぎの契機と開弦弓村の選択の理由については、40歳代男性は地元で就農後に、30歳代の女性では小学・中学卒業直後に出稼ぎに出ている。仲介者がいる場合が多いが、自分で工場を訪問して選択したケースもある。№5(女23歳)は、父母

と弟が上海で出稼ぎをしているため、はじめ2年は上海のセーター工場で働き、2010年8月から同郷人の紹介により廟港の家内セーター工場で働き、2010年12月に開弦弓に来村している。その間、2009年5月に安徽省出身の夫と結婚し、夫は廟港のレストランで料理人をしていて、送金は、妻、子を置いているものが6,000元、10,000元と高いが、全員が送金を行っている。帰省については、1回以上は行っており、長いものは20日ほど滞在している。すでに家を購入した№1は永住を希望しており、夫と子を故郷に残している№4も家族を呼び寄せての永住を希望している。他の2人は故郷に戻り商売を行いた

表9・1 セーター工場の出稼ぎ労働者の待遇

単位：時間，日，元										
No.	性別	年齢	居住地	学歴	出稼ぎ開始年次	家族年数	学歴	労働時間	労働時間	月収
6	男	35	工場	中卒	1998	13	製品の試験	10	28	3,000
7	男	29	工場	中卒	1999	12	製品の試験	10	28	3,000
8	女	23	工場	高卒	2005	6	セーター工	12	30	2,000～3,500
9	女	22	工場	高卒	2007	4	セーター工	12	30	2,000～3,500
10	男	20	工場	中卒	2006	5	セーター工	8	28	3,000

資料) 2011年9月の配表調査により作成。

表9・2 出稼ぎ元の家族と農業

単位：人										
No.	性別	年齢	出身地	家族人数	祖父	祖母	父	母	兄弟(姉妹)	農地面積(㎡)
6	男	35	安徽省懷寧県	6						5
7	男	29	安徽省潜山県	6						4
8	女	23	安徽省潜山県	5		1	1	1	2	2
9	女	22	安徽省懷寧県	5		1	1	1	2	-
10	男	20	安徽省利辛県	7	2	2	1	1	1	30

資料) 表9・1に同じ。

注) - は未回答を示す。

表9・3 出稼ぎの経緯と故郷との関係

単位：元，回，日										
No.	性別	年齢	出稼ぎ前職	出稼ぎの理由	開弦弓村選択の理由	仲介人	年間の送金	年間帰省回数	年間帰省日数	将来の居住
6	男	35	農業	生活向上	-	○	-	4	-	生活改善
7	男	29	農業	生活向上	友人の紹介	○	7,500	4	30	実家
8	女	23	学生	なし	-	○	全額	2	45	実家
9	女	22	学生	-	-	-	全額	2	45	実家
10	男	20	車運転手	進学回避	叔父の紹介	○	なし	2	45	未定

資料) 表9・2に同じ。

いとしている。

(2) セーター工場

表9は以上と同一の形式で、博名針織の出稼ぎ労働者を対象に配表調査を行った結果である。全体では、男女比は6：4であるが、サンプル数がそもそも少ないため、統計的に有意にはこだわらない。まず、年齢であるが、男性では30歳前後の割合が高く、出稼ぎ年数も10年を経過しているものが多い。継続的に当工場で勤務してきたかどうかは設問ミスで定かではないが、製品試験を担当していることから、一定のキャリアがあると思われる。賃金は固定給で月給3,000元である。女性は20歳前半であり、5年前後継続勤務している可能性が高い。男性の勤務時間が10時間（8時間）、勤務日数も28日であるのに対し、女性は12時間、30日勤務であり、月収も2,000～3,500元であることから請負賃金であることがわかる。

出稼ぎ元は全て安徽省であり、全体の傾向を表している。家族数は5～7名と比較的多く、№10の30ムーを除くと、耕地面積は数ムーに過ぎず、賃貸に出しているものもある。作物は水稻中心である。

出稼ぎ前の職業は、30歳前後の男の場合には、一旦就農してから出稼ぎであり、20歳代前半の女性の場合には高卒後すぐの出稼ぎであることが

わかる。出稼ぎの理由は生活の向上であるが、№5（20歳男）の場合、実家は30ムーの農家であり、前職は車の運転手をし、進学回避のために出稼ぎをしたという現代的動機となっている。村選択の理由は記入が少ないが、ほとんどが仲介人を通じたものであり、工場勤務者からの紹介という工場側の回答と符合している。仕送りについては、女性は全額送金であるが、№7は7,500元という比較的高い金額を送っている。№5は送金なしであり、その属性に対応している。帰省については、2回以上しており、滞在時間は長い。セーター工場の操業の季節性を反映している可能性がある。将来的には帰村するというのが全員の回答であり、雑

業層と異なり定住化の意向は全く現れていない。

2) 出稼ぎ労働者の事例

このアンケートのほかに、2011年10月の企業調査の過程において、2名の出稼ぎ労働者に聞き取り調査を行うことができた。以下で整理しておく。

(1) ケース1（熟練工・チェーンマイグレーション）

熊威は田園紡織に勤務する機械修理工である。1979年生まれで33歳、湖北省羅田県出身である。実家は農家であり、おもに母が農業、父は村の書記をしている。1997年に高校卒業後、1999年からの2年間にわたる北京での武装警察勤務後、2002年に結婚し、広州で企業の警備員として就職した。妻（1981年生、31歳）は2003年に広州に移動し、電子製品の品質検査員をしていた。熊は、2004年に地元の先輩を頼って横扇鎮に移動し、紡績工場に2～3年間、機械修理の見習いとなった。技術習得後、横扇鎮内で近隣の紡績工場を転々としていた。妻は2005年に、さらに弟が2008年に横扇鎮に移動し、紡績工場の職工となった。弟は1987年生まれの25歳で、専門学校卒業後、深圳で2年間出稼ぎをしていた。2011年には、熊は田園紡績に移動し、妻と弟も同時に入社したが、それに義妹が加わった。義妹（1983年生、29歳、中卒）は、

それ以前は夫とともに福建省、広州、北京の紡績工場や繊維工場を転々としていた。夫も同時に入社したが、待遇の関係で北京に戻った。熊の移動の理由は、同じ環境にいるのが飽き足らないということであった。

給与面では、2011年になって物価が上昇し、賃金も高騰した。熟練工になると一人で何台かの機械修理を請負うことになる。2010年には、1台当たり月175元、40台を管理していたため、月給は7,000元であったが、現在は1台当たり月215元、56台を請負い、12,000元の月給となった。他の3人は職工であるが、これも出来高払い制であり、2010年は3,000元程度の月給であったが、2011年は4,800元となっている。労働時間は、24時間操業で2交代制である。従業員用の寮に住んでおり、宿泊費と食費は無料で、工場が負担する。熊と妻が1室、弟と義妹はそれぞれ1室をあてがわれている。

実家には7歳の息子を預けているが、両親にはめったに送金していない。正月は必ず帰るが、5年以内には50万円ほど貯蓄をして、地元に戻りたいと考えている。

(2) ケース2（一般工・不安定定住・チェーンマイグレーション）

ここで取り上げるのは夫婦出稼ぎの事例である。夫の梅明瑞は1972年生で40歳、妻の楚曉芳は1981年生で31歳であり、5歳と0歳の子供がいる。夫は、四川省渠県土溪郷出身で、妻も渠県流溪郷の出身である。出身村は水田の2毛作地帯であるが、1戸当たり数ムーの農地しかなく、夫の村の組では人口の70%以上が広東省と上海・江蘇省に出稼ぎに出ている。夫婦は2001年に結婚し、夫が2002年に、妻が翌2003年に出稼ぎを始めた。夫には姉と兄がいるが、姉は後に述べるように開弦弓村に移動しており、1968年生まれの兄（44歳）は結婚して、その妻とともに2002年から浙江省温州へ出稼ぎに行っている。妻には妹と弟がいるが、妹は結婚してその夫と重慶へ出稼ぎに行き、弟も結婚し広東省で出稼ぎをしている。

2002年の夫の出稼ぎ先は、従兄の妻が働いている浙江省であったが、建築業での就労先から体力の問題で解雇され、2か月で別の従兄のいる七都鎮に來た。就職先が見つからず、家具屋、魚の加

工場などでアルバイトしたが、後者が移転して開弦弓村の製銅工場（華東有色金属工場）となったために移転先で引き続き勤務することになる。30人ほどの従業員のうち、5～6人が出稼ぎ者である。仕事の内容は部品の点検や修理や交換であり、技術員として働いており、月給は現在3,000元である。妻は、夫が定職を得て落ち着いた2003年に來村し、永泰電子に就職しているが、二人の子供を出産しており、現在は第2子の育児休暇中である。休暇前の月給は1,800元であった。住宅は13組の1間の空き家であり、家賃は月に80元である。

妻が來村した同年、2003年に夫の姉（1964年生、48歳）とその夫（1957年生、55歳）を呼び寄せ、義兄は同じ製銅工場に職工として勤務する（月給2,500元）。また、姉夫婦の長男（1982年生、30歳）も2004年に來村し、冷蔵庫の部品工場に勤務する（2011年からは開発区の紡績工場に転職）。また、その息子の嫁も2007年に來村する。孫は2人で、一人は小学生であるが、夫の姉は下の子の面倒を見ている。14組の借家（2間）で3世代6人が居住している。

3）出稼ぎ労働者の性格

これまで、限られた調査条件のなかで、出稼ぎ労働者の存在形態を示してきた。以下では断片的な情報をつなぎ合わせて、その特徴を整理してみよう（前掲表3）。

まず、村営継承織布企業の場合には、村民雇用を優先しており、その補完は周辺農村の労働者であり、出稼ぎ者は見られない。ただし、村外の開発区の別会社では出稼ぎ労働者中心の雇用を行っており、村内での雇用行動は歴史的規定性を与えられたものであることがわかる。

これに対し、こうした村規制から自由である新設織布企業では、村民と周辺農村からの区別なく雇用が行われているが、出稼ぎ労働者の割合は概して低い。求是紡績の場合、一時期は15人、20%までその割合を増加させたが、現在では5人、9%まで減少している。聞き取りによるとその確保は次第に困難になっている。田園紡績では、同資本のセーター工場と比較して、出稼ぎ者は5名、6%に過ぎない。ここでは、技能工（修理担当）から聞き取りを行ったが、2004年から数年にわたる技能見習いの期間を経て、現在12,000元の月給

(請負制)を得ている。その呼び寄せ家族(妻、弟、義妹)も請負制で2010年には3,000元、2011年には物価上昇で4,800元の月給を得ている。性別差はない。年齢は、本人が33歳、呼び寄せ親族は25歳から31歳であり、他所での経験を有している。数は少ないと思われるが、こうした技能工への道は存在しており、また一般職でも織機の高度化を経ているため、地元雇用との格差、男女間格差は全くないと言えよう。ただし、村内での定着・居住の意思はなく、比較的高い賃金を蓄積して、Uターンする形態である。

旧型の私営企業では、かつては臨時雇用的に出稼ぎ労働者を50名ほども雇用していたが(2000年代前半)、現在では親族中心の雇用であり、出稼ぎ者は補完的な3人の雇用に止まっている。8時間労働であるが、賃金は紡績工場と比較して安く、管理職で3,000元、一般職で2,000元である。年齢は30歳前後であるが、村内婿入り、村内嫁入りの形で定着しているケースが現れている。

ニットセーター編織は最も出稼ぎ労働者への依存の高い業種である。手動・半自動網織機による家内工業の設立がみられた1990年代末から一定規模以上の雇用に依存した経営では、大量の住み込み出稼ぎ労働力に依存していた(註13)。織機の全自動化が進む2000年代後半には家族結合型の共同経営がみられるが、この個別化後は雇用経営に逆戻りし、さらには工場制による規模拡大も生まれてくる。事例では、工場制では50人の雇用のうち、35人が出稼ぎ労働者であった。ここでは、アンケートを取ったが、男性では30歳前後でやや技術的存在がみられ、賃金も3,000元であるのに対し、女性は20歳代前半で一般工、請負制で2,000~3,500元と幅がみられた。家内工業の2事例でもほとんどが出稼ぎ労働依存であるが、小規模であるため管理は事業主が行っており、男女差はほとんど見られなかった。年齢は男女を問わず20歳代前半であり、2事例とも工場移転が直近である影響も考えられるが、定着度は非常に低くなっている。セーター製造は季節性をもち、雇用の不安定性が高く(註14)、労働環境や宿泊条件も紡績以上に低位であるため、出稼ぎ労働に依存せざるを得ないのである。短期流動的であり、当然定着への志向性を持たないといえる。このように、

一般的には出稼ぎ労働者、特に30歳前後を中心とする紡績工場の労働者、20歳前半のセーター工場労働者は定住化の志向を持たないと言える。

しかし、出稼ぎ者の中で一定数の定住者を有するのが、雑業層である。30歳代後半から40歳代であり、出稼ぎから10数年を経過して、さまざまな雑業的職種に着き、月に5,000元程度の収入を得ている。この実態解明については今後の課題であるが、相当の人数にのぼると考えられる。第二が夫婦出稼ぎの例であり、ここでは40歳、31歳の夫婦の事例を紹介した。共働きで、10年程度の出稼ぎ歴があり、この村に流れ着いたといえよう。子供も生まれているが、戸籍取得は困難であり、居住環境も従ってよくない。こうしたタイプが今後、村に定着していく可能性は大きいといえよう。この村でも出稼ぎ労働者が大量に流入した時期には治安問題が発生したが、現在は問題はないという。しかし、出稼ぎに依存する部門が存在する限り、少数派ではあれこうした定住者に対する対策が必要となるのである。

おわりに

開弦弓村においては、費孝通が提唱した小城镇建設の柱である農村工業化の影響のもとに、村レベルでの村営企業による雇用創出が行われ、雇用吸収力をもった企業活動が展開された。1990年代半ばからそうした村営企業が経営危機に陥り、それを受けて私営企業への転換政策とその実現がなされてきた(朴ほか[2012a])。

本論は、以上を統計的に位置づける作業と並行して、個々の私営企業調査にもとづき、企業の具体的展開とそこでの雇用の実態を明らかにすることを課題としてきた。そのひとつの焦点が出稼ぎ労働者である。当初の村民を雇用対象としてきた目標からどの程度、農村工業が乖離しているのかは、この村の現段階をとらえるためには欠かせない課題である。

結論としては、紡績工場にとっては出稼ぎ労働者の存在は補完的なものであること、セーター工場においては当初から出稼ぎ労働者の存在を前提として拡大が進んでおり、その確保が困難になった場合、その存立が難しいということが明らかとなった。出稼ぎ労働者の問題は、三農問題の理解

においても、沿海部の発展の条件を考える上でもきわめて重要であるが、沿海農村における位置づけも重要であることがわかった。実態解明は端的であるため、より詳細な分析を行うことが課題となっている。

付記

本論文は、2004年から実施してきた面接調査、特に2010年9月、2011年10月、2012年1月調査をもとに得られた研究成果の一部である。調査にあたっては、開弦弓村村民委員会、地元企業、農家のみなさんにお世話になった。記して感謝申し上げる。

註

- (註1) 出稼ぎ労働者に関する研究については、馮 [2009]、嚴 [2009]・[2010]、大島 [1996]・[2001] を参照。ルイスの転換点をめぐっては、田島 [2008]、南ほか [2009] を参照。
- (註2) 2004年8月と2010年9月に聞き取りを行っている。
- (註3) 2004年8月と2010年9月に聞き取りを行い、朱ほか [2010] p.290～295、周 [2006] pp.94～101を参照した。
- (註4) 周は開発区において、2004年から共同経営で月亮家庭紡績を設立し、旧式織機84台で3.4m幅の織布生産を行い、売上げ800万元で利益率20%の成果を上げた。この時期の雇用は180人であり、安徽省、湖北省、河南省などの出稼ぎ労働者も雇用した。2008年からは単独経営となり、新式織機45台で3.4m幅の織布生産を行っている。日産は4,000mである。現在は90名を雇用している。
- (註5) 2012年1月に聞き取りを行い、朱ほか [2010] pp.296～304、周 [2006] pp.101～107、168～172を参照した。
- (註6) 2011年10月に聞き取りを行い、朱ほか [2010] pp.281～284、周 [2006] pp.162～1166を参照した。
- (註7) 民間貸借（中国語では「民間借貸」）は、一般的にいわれる「地下錢庄」であり、村民が余裕金を会社に年利10%で預け、引き出しは1ヵ月前に通知し、日割りで利息を清算する仕組み（インフォーマル金融）である。平均の預け期間は2～3年である。預金者は銀行利息が現在2%台であるため有利であるし、会社は銀行貸付が農地担保で借入が制約されており、低金利（銀行金利は10%、高利貸は存在しない）のメリットがある。リスクは、家も工場もあり、会社は動けないという信用によって低いと意識されている。預金者は村

内が50%、村外（妻の出身の連強村中心）が50%である。

- (註8) 2011年に蘇州市教育局から出稼ぎ労働者の子供が現地で入学可能とするという通知があったという。
- (註9) 2004年8月と2010年9月に聞き取りを行い、朱ほか [2010] p.290～295、周 [2006] pp.94～101を参照した。
- (註10) 朴ほか [2006] pp.29～30。
- (註11) 2011年10月の聞き取りによる。
- (註12) 2012年1月の聞き取りによる。
- (註13) 朴ほか [2006]、朴ほか [2012a] を参照。
- (註14) 朴ほか [2012a] pp.79を参照。

参考文献

- 大島一二 (1996) 『中国の出稼ぎ労働者』 芦書房。
- 大島一二編著 (2001) 『中国進出日系企業の出稼ぎ労働者』 芦書房。
- 周擁平 (2006) 『江村経済七十年』 上海大学出版社。
- 朴紅・坂下明彦・市来正光 (2006) 「中国蘇南地域の農村工業化と就業構造 - 江村の追跡調査⁽²⁾」 『農経論叢』第62集。
- 田島俊雄 (2008) 「無制限労働供給とルイスの転換点」 『中国研究月報』 62巻 2号。
- 朴紅・市来正光・坂下明彦 (2008) 「中国蘇南地域における農家の就業構造の特質 - 第13組のモノグラフィ - 江村の追跡調査⁽³⁾」 『農経論叢』第63集。
- 嚴善平 (2009) 『農村から都市へ - 1億3000万人の農民大移動 -』 岩波書店。
- 馮文猛 (2009) 『中国の人口移動と社会的現実』 東信堂。
- 南亮進・馬欣欣 (2009) 「中国経済の転換点 - 日本との比較」 『アジア経済』 L-12。
- 朴紅・坂下明彦・姚富坤 (2010) 「中国蘇南地域における農地転用と農地調整 - 江村の追跡調査⁽⁴⁾ -」 『農経論叢』第65集。
- 嚴善平 (2010) 『中国農民工の調査研究 - 上海市・珠江デルタにおける農民工の就業・賃金・暮らし -』 晃洋書房。
- 朱雲雲・姚富坤 (2010) 『江村変遷 - 江蘇開弦弓村調査』 上海人民出版社（中文）。
- 謝舜方・曹雪娟主編 (2010) 『江村七十年 - 中国農民的小康路之路』 南京師範大学出版社（中文）。
- 朴紅・坂下明彦・姚富坤 (2012) 「蘇南地域における農村工業の転換と雇用吸収力 - 江村の追跡調査⁽⁶⁾ -」 『農経論叢』第67集。